



立区立 足立区立 郷土博物館 だより

2018 spring
No.73

足 立区立郷土博物館で発行する「博物館だより」は、開館一年

後の昭和62年から発刊を開始し、とくに展示のスケジュールやイベント、その内容のご案内を中心としていました。このたび、紙面を新編集とし、博物館の仕事や役割などそのヒミツ？をお届けいたします。郷土博物館って何をしているところなのか？どんな風に展示をしているの？などということ、

博物館で大切な「調査・研究がどのように行われているのか」ということももっと、具体的に楽しくお知らせできたらと考えています。

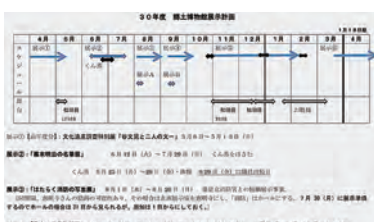
当館は、区立の小ぢんまりとした博物館です。国立や県立の大規模館とはいろいろな面で違うこともあります。全国の博物館のなかでは、市立、町立などと同様で、規模や運営形態なども数が多い博物館・美術館のひとつで

はないでしょうか。身近だけど知られざる！？博物館についてご紹介していきます。最新の調査研究情報もお届けいたします。これからもよろしくお願いたします。

一年間の展覧会予定については、「展示スケジュール」を発行しました。合わせてご覧下さい。また、郷土博物館HPでもご案内しています。

展覧会の内容と日程まで決定するのは、前年末くらいになります。

特別展が秋に多いのは、その昔、空調がなかった時代に、資料の保存に適した気温二〇度、湿度六〇パーセントに近い気候のときに展覧会を開催していた歴史的な慣習がありました。（４頁マンガも参照）また、年度で仕事や予算を区切るため、四月から始まっている。人にとっても動きやすい季節で、秋の風情とあいまって「芸術の秋」といわれるようにもなりました。



館内で作成する展示計画

博

物館の活動のなかで最も大きいものは展覧会です。「博物館展覧会・展示」というイメージがあるでしょう。展覧会は研究の成果をお伝えする集大成でもあり、収蔵している資料をご覧に入れる機会でもあります。

一年間の展覧会計画は、次年度予算の算出を始める前年の夏ごろに始まり、特別展などの場合は、三年くらい前から予定しています。

大きな展覧会を中心に、大小取り混ぜて年間、四、五回の展覧会スケジュールをつくりま。

今回は、その計画の立て方をご説明

特集

展覧会スケジュールのつくり方

します。テーマや会期を決めるには、さまざまな留意点があります。

意外と重要なのは、【展覧会会場となる「企画展示室」はなるべく聞く】ということ、【展覧会回数を少なく】と行うこともありません。

お客様は行くたびに次々と面白い展覧会が開かれていることが理想だと思います。ところが、展覧会を開催する

ためには、調査や研究にかける時間、資料の借用手続きや交渉などの手間もかかります。また、印刷物やパネルな

テーマや会期決定のおもな留意点

- 連休や夏休みなど来客が多いときには開催中
- × 三連休に展覧会をやっていないなんて
- 記念の日や周年に会期がかかるように
- × アピールポイントをはずしてどうするの
- 同じような展覧会が続かないように
- × 絵画のあとに浮世絵・「絵」の展示ばかり
- 季節に合うように
- × 真夏に「冬の浮世絵」はないだろう

どを作る契約手続き、原稿やネームプレートを作成、陳列の作業など、時間と労力がかかります。（あんな小さな展示室なのに？）と思われるでしょうが、足立の特色を掘り下げて展示するとなると厳しいところです。



展覧会担当と 今年度のみどころ

たとえば

展覧会には担当がいる！

展覧会には、それぞれ担当する学芸員・専門員がいます。当館では、歴史学・民俗学・美術史学の学芸員と専門員がそれぞれおり、専攻や得意分野を活かして担当します。展覧会の決定の留意点のなかに、「担当が続かないようにする」というのも入るかもしれません。担当は、展覧会の準備から終了まで掛かりきりになるからです。大規模館では展示の担当は三〜五年に一度くらいですが、当館では毎年一度は当たり、ほとんど一人で担当するのが基本です。近年は「文化遺産調査」の展示など、学芸員・専門員は全員で携わる展示が増えています。

今年の展覧会は？

●**記念イヤーの展示** さて、今年は、明治維新一五〇年の記念の年になります。各地でこれを記念した展覧会やイベントが行われるでしょう。6月から開催する「幕末明治の名筆」も、維新記念を意識した開催です。記念年での

開催は記念名称をつけることでのアピールや宣伝効果もありますが、理解を深めるという効果も生まれます。

同じく今年は、広重没後一六〇年の記念年で、当館でも広重の浮世絵展を開催します。広重を専門とする美術館も力を入れた展覧会を開催するでしょう。広重に関わる書籍やテレビ番組なども企画されることが想像されます。いわば広重キャンペーンのような状況になり、歌川広重をより深く理解する契機になるでしょう。

●**美術史界も注目** 特別展では、文化遺産調査成果のひとつの山場となります。江戸から明治時代にかけて当時の文人、絵師、画家たちと直接交流して



〔上〕2階ギャラリー・常設展（通常の展示）

〔下〕特別展時のようす

いた旧家には、当時のままの美術資料が伝えられています。近年、こうした資料の再確認と調査依頼が相次ぎ、次々と新資料が発見され「美と知性の宝庫 足立」とシリーズ化しています。

特別展「大千住 美の系譜」では、四年近く整理と調査研究を続けてきて、資料全体を通してわかることなどを伝えたく、集大成に近いものを目指しています。名倉彌一、素朴翁（1839〜1902）の還暦祝いの祝賀色紙帳は絵師、書家、俳諧師、歌舞伎役者などの幅広い当時の文化著名人が名を連ねています。これに象徴されるように、

足立の人々が芸術・文化を育み楽しむ社会を創り

上げていたことを実感してください。

★展示室大変化

とくに大きな展覧会の際には、常設展示を一時片付けてホールや二階ギャラリーまで、特別展示仕様に変えます。展示準備のために、休館日を設定し総出で作業を行います。

●王道の歴史展示

年が変わって開催するのが「戦国足立の三国志」です。中世史専攻の専門員が早くから企画していたもので、足立の中世をしっかりと説明する展示になります。資料自体は地味かもしれませんが、いまひとつ知られていない足立の中世世界の魅力を伝えます。

平成30年 展示スケジュール

登録文化財修復記念 **幕末明治の名筆**

6月12日(火)～7月29日(日) ※6月25日～29日はくん蒸休館
区内に残された幕末の文化人、明治維新の志士たちの墨蹟を紹介

収蔵浮世絵展 **没後160年 広重目線**

9月4日(火)～10月8日(月・祝)
「世界のヒロシゲ・足立の広重」、大胆で印象的な構図、人々を魅了する広重ビューの魅力さをさぐる

美と知性の宝庫 足立3 大千住 美の系譜

10月30日(火)～2月11日(月・祝)
千住の旧家に残された新発表の名品を一挙に展示し、美術史的にも重要な足立の文化・芸術力を区内外に広く発信

戦国足立の三国志—宮城氏・舎人氏・武蔵千葉氏—

3月19日(火・祝)～5月6日(月・休)
足立の戦国武将たちが繰り広げた勢力争いとその行く末を紹介

日本最高峰の文晁研究機関??

平 成30年3月6日から5月13日
まで開催の「谷文晁と二人の文

一」の図録の執筆過程で、たびたび議論が発せられました。議論というより、ブレインストーミングというか、単なる雑談？ なのかもしれません。

谷文晁は某テレビ番組でも、よく取り上げられる江戸時代後期の日本画家です。写山楼という画塾にはたくさん弟子が集い彼に手ほどきを受けました。今回は、その娘婿一世文一とその子、二世文一と文中、文晁の実子、文二など、全員絵師であった文晁のファミリーを取り上げています。有名な文晁、その娘婿一世文一までは知られていますが、二世文一や文中はそもそも作品がほとんど残っておらず、研究者にもこれまで注目されることのなかった人達です。今回は、新出資料も多く、どう位置づけるのかも手探りです。

そんなこともあって、歴史学、民俗学と門外漢であることを強みに、言いたい放題ありでも、こーでも、とよく言えば仮説、簡単にいうと想像を取り混ぜての活発な意見の交換が、突発的

に頻繁に、さらに断続的に行われているわけですね。「文二と二世文一の間に何かあったのか!?!」、ワイドショー的な関心まで含めて連日熱く語られる文晁一門です。

一世文一が長生きしていたら、違ったろうねえ

二世文一は、文五郎を文淵のところに入れていたりしてますよ。面倒見てたんじゃないですか

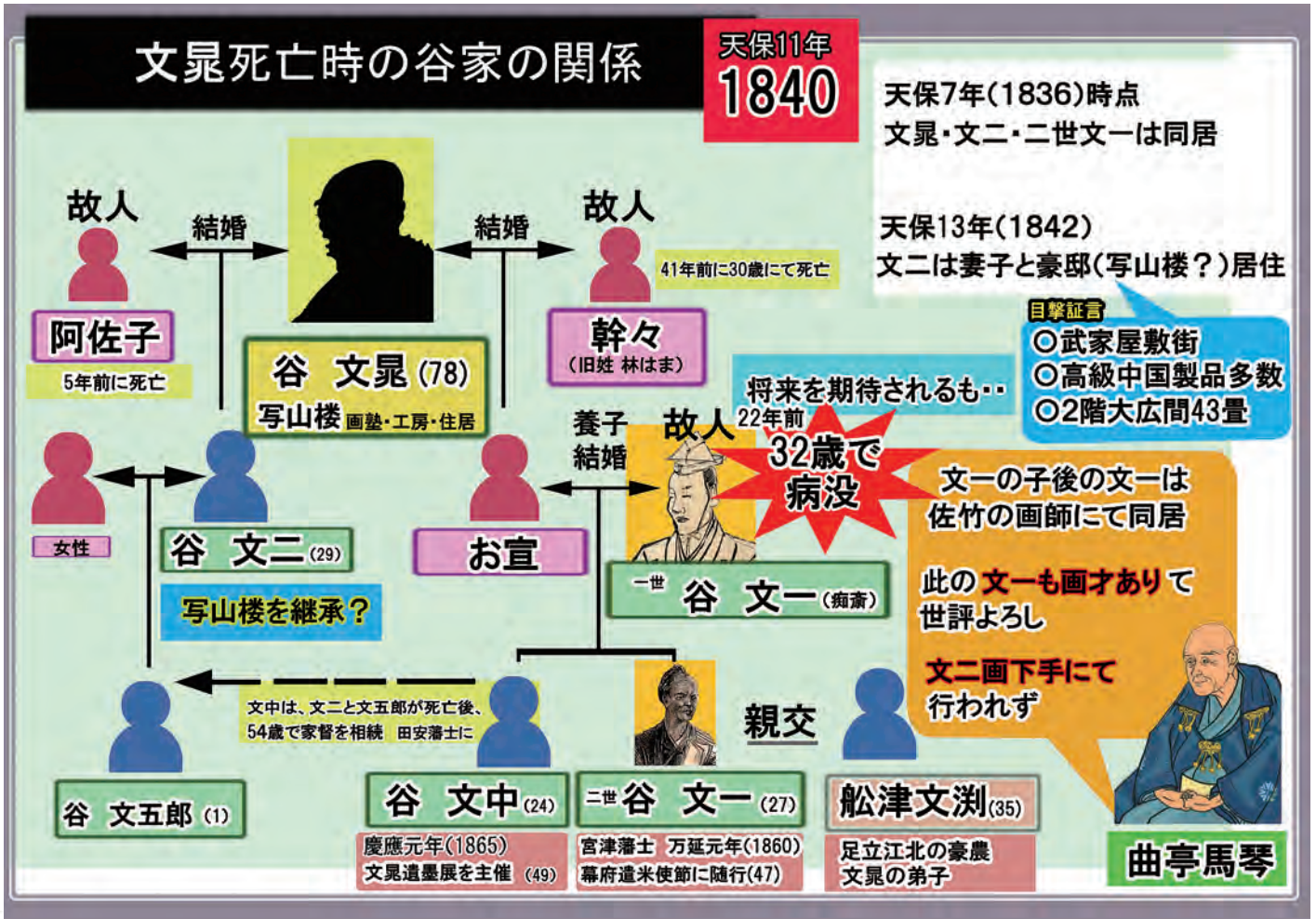
文二のところ、繁盛したっていう記録がありますし、大広間四十三枚敷きって、これは写山楼でしょう

結局、画塾としての写山楼ってどういう位置づけなんですかね

二世文一と文二、年が近い。微妙な関係ですね

自称「日本最高の文晁研究機関」の熱い？ 議論は続きます。

詳しくは、ぜひ展覧会と展示図録をご覧ください。



資料を守る**空気**のト

* 湿度60パーセントは、65パーセント以上の湿度で発生する好乾性のカビを抑えることができます。また、金工品の場合は55パーセント以下が適するなや資料によっても違いがあります。



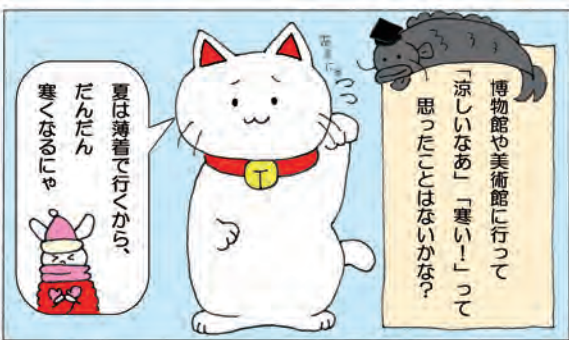
古い紙や絹は、湿度と温度の変化によっても弱いんだよ



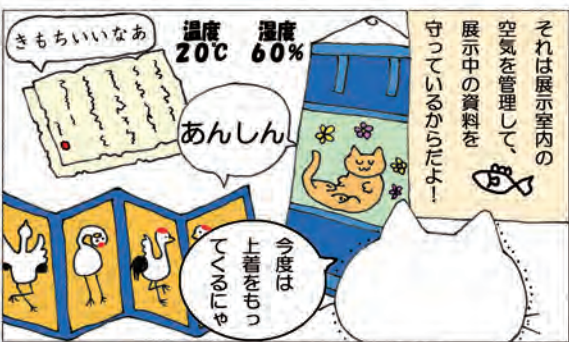
温度20℃
湿度60%

24時間
年中無休

中では24時間
一日も休まず
温湿度が保た
れているよ



博物館や美術館に行つて「涼しいなあ」「寒いー」って思ったことはないかな？



温度 20℃
湿度 60%

あんしん

今度は、
上着をまっ
てくわす

それは展示室内の
空気を管理して、
展示中の資料を
守っているからだよー

微妙な温湿度設定はとっても難しいにや
一番いけないのは、急激に温湿度が変わること。
結露しちゃうたり、急に乾燥すると
木製品など割れることも！



博物館を伝える ネコタンゴ

「無料公開日」ののぼり旗や、学校児童向けのワークシートで活躍しているねこちゃん、親しみやすく、わかりやすく博物館を紹介してくれるキャラクターです。その名はネコタンゴ。モデルは、展示室のどこかにいる世田谷ホロ市出身の招きネコです。名前の由来は、当館資料のタンゴに由来しています。足立周辺の方言で、タンゴとは桶のこと、セリツミタンゴ、コエタンゴ(肥桶)と第一展示室で紹介しています。白ねこのタンゴ。かわいがってください。

一昨年迎えた博物館三〇周年で登場し、HPの「ねこまんが」でも活躍中です。



どこにいるのかさがしてみてね



夏休みのテキストでも活躍



足立区立郷土博物館だより 73号

平成30(2018)年4月 発行



足立区立郷土博物館

〒120-0001 東京都足立区大谷田5-20-1

電話 03-3620-9393

FAX 03-5697-6562

足立区立 郷土博物館

